

きらきら発電法人設立記念 4月18日学習講演会

4月18日(土)午後3時半～5時半、仙台市民活動サポートセンター4F 第5研修室(仙台市青葉区一番町4-1-3、電話212-3010)にてNPO法人結成記念講演会を開催します。講師は2月1日発電を開始したばかりの市民共同かわさき発電所」代表の川岸卓哉弁護士(川崎合同法律事務所所属)。

市民共同かわさき発電所は、きらきら発電と同様無利息の基金を集めて市民発電所を開設。先輩格神奈川県川崎市の取り組みを学ぶ企画です。参加費は無料。会員ならびに自然エネルギー発電に興味をお持ちの方の参加をお待ちしています。

なお講演会終了後懇親会を開きます。参加費3000円、参加希望者は事務局までご一報を。



映画上映会「シェーナウの想い」

この映画は、ドイツ南西部、黒い森の中にある小さなまちシェーナウ市の住民グループが、チェルノブイリ原発事故をきっかけに「自然エネルギー社会を子どもたちに」という想いから、ドイツ史上初の「市民の市民による市民のための」電力供給会社を誕生させるまでの軌跡を綴るドキュメンタリーです。2008年制作、上映時間60分。ユーチューブで5分程度の短縮版を見れます。

映画「シェーナウの想い」の上映会をNPOきらきら発電結成の4月以降、県内各地で行うことを決めました。担当は武井・高山・広幡博の3名。泉病院友の会ホールやつばさ長町店会議室などをお借りし、気軽な「観る会」を企画します。自分の地域で上映希望の方は事務局にご一報ください。



市民共同かわさき発電所現地見学会

秋の自然エネルギー

研修旅行会企画

ドイツ・シェーナウ賞を受賞した会津電力(喜多方)、今年四月完成予定の花の郷小水力発電所(下郷)、福島りょうぜん市民共同発電所(日本環境学会元会長和田武氏代表)の見学と大内宿を訪ねる旅を、仙台市議選直後(九月初め)もしくは宮城県議選直後(十一月初め)に企画します。土曜と日曜、一泊二日の旅です。

省エネ省電力学習会

使用電力を減らすことが「発電所」設置と同じ効果に。そんな思いで小学習会を各地で開催したいと願っています。お声をかけてください。

NPOきらきら発電・市民共同発電所(準)

〒981-3215 仙台市泉区北中山3-17-12

広幡方 電話・FAX 022-379-3777

メール=kirakirahatuden@outlook.jp

<http://kirakirahatuden.com/>

News 第4号

2015年2月8日(月)

放射性廃棄物最終処分場問題シンポジウム 仙台で400名参加

最終処分場の候補地は地滑り地帯

「放射性廃棄物最終処分場を考えるシンポジウム」が1月25日仙台市で開かれました。最初東北大学名誉教授大槻憲四郎氏(地質学)が「宮城県の候補地はどれも地滑り地帯」と題し、「大和町下原は船形・三峯直下の巨大地滑り地帯を上流に抱える。加美町箕ノ輪山は周囲に地滑り地帯を抱えしかも強風積雪地帯。栗原市深山牧場はすぐ隣りに岩手宮城内陸地震で大崩落した荒砥沢地区がある危険区域。しかも環境省が候補地選考に利用した地図は32年前旧国土庁土地保全基礎調査で作られたもの、現在の地質学には対応できていない。処分場建設をするなら宮城県庁が1級水源地と認める所ではなく、下流風下地区を対象にすべき」と強調。



山間地焼却埋め立ては乱暴な議論

次に技術論が専門の井原聰氏(東北大学名誉教授・日本科学者会議常任幹事)が「環境省自らが宮城県市町村長会議で百年管理しなければならないと説明する8千ベクレル以上の放射性廃棄物を、焼却処分の上30年以内に土で埋める案となっている。焼却時セシウムは650℃で気化し冷却され固体状態となるが100%除去は不可能で、容器の腐食・コンクリート浸食なども心配される。福島県の放射性廃棄物は30年間中間施設に保管となっているから、宮城県でもまずは30年間保管すべき。学術会議でも最終処分場建設を急ぐなと提案している」と指摘。「放射性物質汚染対処特措法は臭いものにふたの思想、断固反対しよう」と参加者を鼓舞しました。

新たな放射能汚染を作らないこと

集会第2部では候補地3カ所の住民と、山形・岩手・千葉・栃木からの参加者が発言。最終処分場建設を求められる県同士で連帯交流し特措法をはねかえそう。国と東電の責任を迫及し、新たな放射能汚染を作らせないという立場で故郷の水源地を守っていこうと、熱く語り合いました。

春雪解けとなれば、環境省の現地調査が再開されず。宮城県の農作地帯大崎・栗原平野の水源地を守り、新たな放射能の拡散を防ぐため、わたしたちも今後の推移を見守り支援していくことが求められます。

放射性廃棄物かかえても水源地は絶対反対
東日本復興支援みやぎ県民センター 梶谷貢氏が県内指定廃棄物の大半を占める登米市と栗原市の現状を特別報告。
「環境省管理の登米市では保管場所に柵が設けられずさんな管理だが、一方県と市共有管理の栗原市は柵をもうけている。栗原市で個人所有地保管を同意した土地所有者に取材したら『2年間という約束だったので、延期され正直困惑している。だが自分自身細倉カドミウム汚染を経験しているので、水源地に最終処分場を建設するのは反対』と答えてくれた。」

利府町加瀬の東部焼却場見学会

日時=2月18日(水)午後

集合場所=泉病院友の会 12時半

利府焼却場 13時半

主催=泉病院友の会環境委員会

低レベル放射能汚染物質を一般ゴミと一緒に焼却している現場を見学します。参加希望は広幡まで。